

平成30年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input checked="" type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	体育授業における対話的学習活動の変容過程と学習効果
報告者氏名・所属・職名	中島 寿宏・札幌校・准教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	中島 寿宏・札幌校・准教授
研究内容及び成果の概要	<p>本研究テーマでは、小学校および中学校の児童生徒を対象として、体育授業における児童生徒間コミュニケーションの様相の検証、および、コミュニケーション状況の発展過程について分析・検証することを目的として様々な調査を実施した。特に、授業におけるグループ内での児童生徒間コミュニケーションを定量化・可視化して詳細に分析することで、体育授業で形成されるグループ内コミュニケーションの発展過程について検証することが研究の主たる目的である。コミュニケーションの定量化・可視化については、(株)日立製作所のビジネス顕微鏡を使用し、言語的な対面コミュニケーション時間を測定した。今年度の成果として、1)体育授業におけるコミュニケーションには、学習への取組状況によって3つのフェーズがあること、2)熟練教師と教育実習生の比較から熟練教師はより発問・問いかけ・意見の促しという関わり方が多くなっていること、3)コミュニケーションの可視化データのフィードバックが教師にとっての体育授業改善に大きく貢献する可能性があること、4)体育授業でのチーム・ティーチングにおいて教師間の目的意識の共有化が進むこと、5)コミュニケーションの促進による生徒自身の課題意識の高まりが短距離走や球技での運動技能の向上に寄与すること、といった結果を得ることができた。これらの成果は教師教育の場面で大きく活用が可能であり、今後は教員免許更新講習などでも紹介する。また、北海道教育大学札幌校で実施している「保健体育実践演習」での学生による模擬授業において、上記の調査結果をもとにした可視化データを学生にフィードバックすることで、学生たちの体育授業での指導技術向上に役立てることができた。</p>
成果の公表の状況	<p>【学会発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中島寿宏, 伊藤崇: 日本発達心理学会企画シンポジウム, デジタルが変える子どもと高齢者の世界 —認知・社会性の発達から社会的ネットワークまで—, 日本発達心理学会第30回大会, 早稲田大学, 2019. ・中島寿宏・高橋正年・高瀬淳也: 中学校における体育科と他教科との関わり—言語的コミュニケーションに着目して—北海道体育学会第58回大会, 北海道医療大学, 2018. ・中島寿宏: 教員養成段階における体育模擬授業の対話的学習に関する事例研究—言語的コミュニケーションの可視化による授業改善の試み—, 日本スポーツ教育学会第38回大会, 広島大学, 2018. ・T. Nakajima, T. Oikawa, T. Ito, M. Kawata: Development of children's play style and networking in kindergarten - Measurement of communication as visible data by the business microscope -. European Early Childhood Education Research Association 28th Annual Conference, Budapest, 2018.
教育現場で活用可能な分野・教材等	<p>体育・保健体育分野において、教師の児童生徒への関わり方の技術習得やスキルアップのために現職教員が研修を行う際に利用可能である。また、体育に限らず、対話的な学習場面の状況把握についても活用が可能となる。</p>
配布又はダウンロード可能な資料	
問い合わせ先	<p>代表者: 中島 寿宏 電話: 011-778-0967 FAX : 011-778-0967 mail : nakajima.toshihiro@s.hokkyodai.ac.jp</p>